

# 水稻の品質向上にむけて

## ～イネカメムシの防除体系の検証～

### 1 活動のねらい

八千代市では、水稻の斑点米カメムシ防除は共同防除が主体ですが、「コシヒカリ」を主な対象として防除時期が設定されているため、作付け品種や作型の違いにより、適期防除とならない事例が生じています。特に、近年県内で増加傾向であるイネカメムシは出穂期以降に成虫の飛来が急激に増加するため、被害を抑えるためには出穂期前後の初期防除が重要です。そこで、周囲よりも早く出穂期を迎える水田での効果的な防除の実施に向け、出穂期前後の個別防除について防除効果を検証しました。

### 2 課題の背景

イネカメムシ（写真1）は、イネが出穂すると水田に侵入して吸汁加害します。八千代市では、令和元年頃からイネカメムシが多発し、本種によると思われる斑点米等の発生が問題となっていました。令和3年度に共同防除剤がラブサイドキラップFLに変更されたことにより、イネカメムシによる被害を抑えることができましたが、共同防除は実施日が決まっているため、ほ場によっては適期防除とならない場合があります。そこで、共同防除日より早く出穂期を迎える「ふさのもち」を作付けしたほ場で、出穂期の個別防除によるイネカメムシの被害低減効果を検証しました。

### 3 普及活動の経過・結果

#### （1）個別防除による効果の検証

八千代市保品の水稻生産者に試験設置を依頼し、①出穂期5日前の粒剤散布+出穂15日後の共同防除の2回防除を行う区（以下、試験区1と記す）、②穂揃期の液剤散布+共同防除の2回防除を行う区（以下、試験区2と記す）、③共同防除のみを行う区（以下、慣行区と記す）の3区を設置して（表1）、イネカメムシの水田内侵入量及び斑点米発生状況を調査しました。

表1 ほ場概要

品種	ふさのもち		
移植日	4月13日		
出穂期	7月13日		
防除	7月8日	（試験区1）	個別 キラップ粒剤
	7月14日	（試験区2）	個別 スタークル液剤10
	7月28日	（全ほ場）	共同 ラブサイドキラップFL
収穫日	8月20日		

※キラップ粒剤は出穂期に効果がでるよう、出穂期の5日前に散布。



写真1 イネカメムシの成虫

その結果、出穂期に効果が出るよう薬剤散布を行うことで、イネカメムシの成虫のほ場への侵入量を抑えて（図1）、本種による被害を低減できることが示唆されました（表2）。

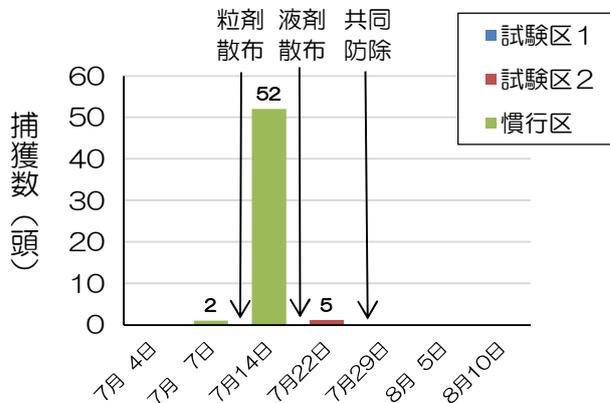


表2 斑点米の発生率（%）

区	精玄米	くず米
試験区1	0.03	0.33
試験区2	0.03	0.45
慣行区	0.03	7.17

図1 イネカメムシ成虫の捕獲数

## (2) イネカメムシによる被害の低減に向けて

今回の試験結果について、個別巡回時に生産者と共有し、イネカメムシの発生が多い場合に速やかに個別防除を実施するよう提案しました。共同防除剤が変更されてからは斑点米の被害が減ったため、現在は大きな問題にはなっていませんが、試験を実施したほ場を管理する農家からは、ほ場をよく観察してイネカメムシの発生状況に応じて個別防除を取り入れたいとの意見が寄せられました。

## 4 今後の課題

県内のイネカメムシの発生数は増加傾向であるため、引き続き注意する必要があります。今後もイネカメムシ等の斑点米カメムシ類による被害低減に向けて発生予察や、近隣地域の発生状況についての情報提供等を行い、防除時期や薬剤の種類を考慮して効果的な防除ができるよう支援します。



写真2 ドローンによる液剤防除

- 5 担当者 千葉・習志野グループ 清宮 斉、黒住 和美  
市原グループ 小野 英吾  
八千代グループ ◎水島 莉那

- 6 協力機関 担い手支援

